



コテとしっくいのをせたコテ板をもつ木本己樹彦さん＝1月13日、神奈川県藤沢市の木本工業所、近藤理恵撮影

主な仕事

- 1 左官仕事の依頼がくる**
「こんなぬり方もありますよ」
- 2 周りを保護する**
「汚さないようにしっかりと……」
- 3 材料作り**
「ちょうどいいかたさだな」
- 4 ぬる**
「きれいに仕上げるぞ！」

イラスト・たなかさゆり

しょうかい
紹介します

さかん
左官

のしごと

木本己樹彦さん
株式会社木本工業所(神奈川県藤沢市)
伝統的な技術で壁や床をぬる

左官とは、工具のコテを使って、建物のかべやゆかなどの土台をぬりかためたり、最後の仕上げをしたりする仕事です。

左官の伝統的な技術は、「伝統建築工匠の技」のひとつとして、ユネスコ(国連教育科学文化機関)の無形文化遺産に登録されています。

木本さんが代表をつとめる木本工業所は、神社仏閣や一般住宅、ビルの他に、テーマパークで演出に用いられる擬木(木をまねた造形物)の左官工事なども手がけています。

「左官とはシンプルに、ぬる仕事」と言う木本さん。何をぬるかは場所や目的によっていろいろです。建物の土台造りにはセメントを、最後の仕上げには石灰に海藻などを混ぜて作る「しっくい」をよく使うそうです。

しっくいは、職人が水を加えてぬりやすいかたさにします。空気中の湿度を調整する、カビが生えにくい、燃えにくい、においを吸着するといった特徴があります。最後は土にかえるので、環境にもやさしい素材です。

木本さんは、2008年に会社の代表をお父さんから引き継ぎました。外部の職人30人ほどと協力して、さまざまな種類の左官仕事に対応しています。

やりがいや苦労

しっくいの可能性を広げたい

左官職人は減っています。「今は、職人はうでさえみがけはいい時代ではない。使う材料などの知識も深めることが大事」と木本さん。

木本さんがくわしいのはしっくいです。世界中のしっくいを取り寄せ、原産地にも足を運んで研究し、かべ紙の上からぬることが出来るオリジナルしっくいも開発しました。

しっくいは、その土地の気候や季節に合わせて配合を変えます。木本さんの作るしっくの配合を買いたいと言われることもあるそうです。「これからもしっくいの可能性を広げていきたいです」

クローズアップ

●コテは場所によって使い分けます。「こんなに種類があるのは日本くらいです」と木本さん。①ラーメン屋さんのかべに「めん」のようをつけた自作のコテ

あゆみ

スポーツが得意で、中学、高校はサッカー部に所属してたくさん練習しました。高校を卒業後、親の会社で左官職人の道へ。ところが、先輩の使う道具を洗い、材料の下準備ばかりする毎日がいやになり退職。夏はライフセーバー、冬はスキー場などで働いて趣味に打ちこみました。人生が変わったのは20歳の時。同級生の活躍にあせりを感じて地元の建設会社に就職、働きながら勉強して建築関係の資格を取りました。30歳の時、かたむいた家業を立て直すために木本工業所へもどり、型にとらわれない挑戦を続けています。

1965年 神奈川県生まれ
1984年 県内の私立高校を卒業、木本工業所に入社、左官職人として働く
1987年 退職し、さまざまな職につく
1992年 地元の建設会社に就職
1996年 木本工業所に再入社
2008年 木本工業所の代表取締役 に就任